

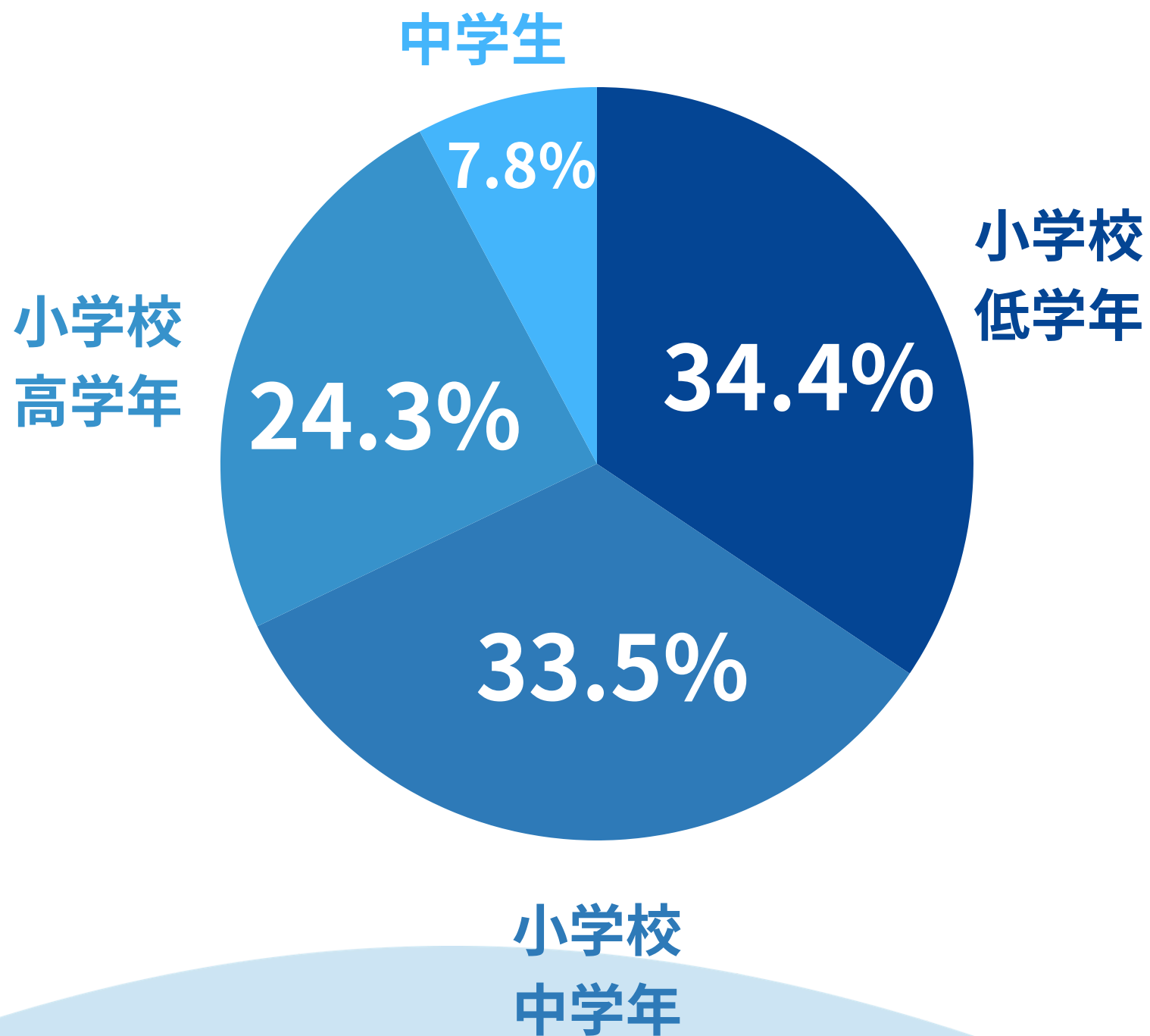
水の事故防止に関する意識調査

2025年10月～12月実施



一般社団法人パワーストローク

アンケート対象者



本資料は、来年の水遊びシーズンを前に、子どもたちの水難事故を未然に防ぐための対策検討を目的として、一般社団法人パワーストロークが実施した「水の事故防止に関する意識調査（全10問）」の結果をまとめたものである。

調査は、愛知県岡崎市内の複数の小学校に通う児童の保護者390名を対象に実施した。

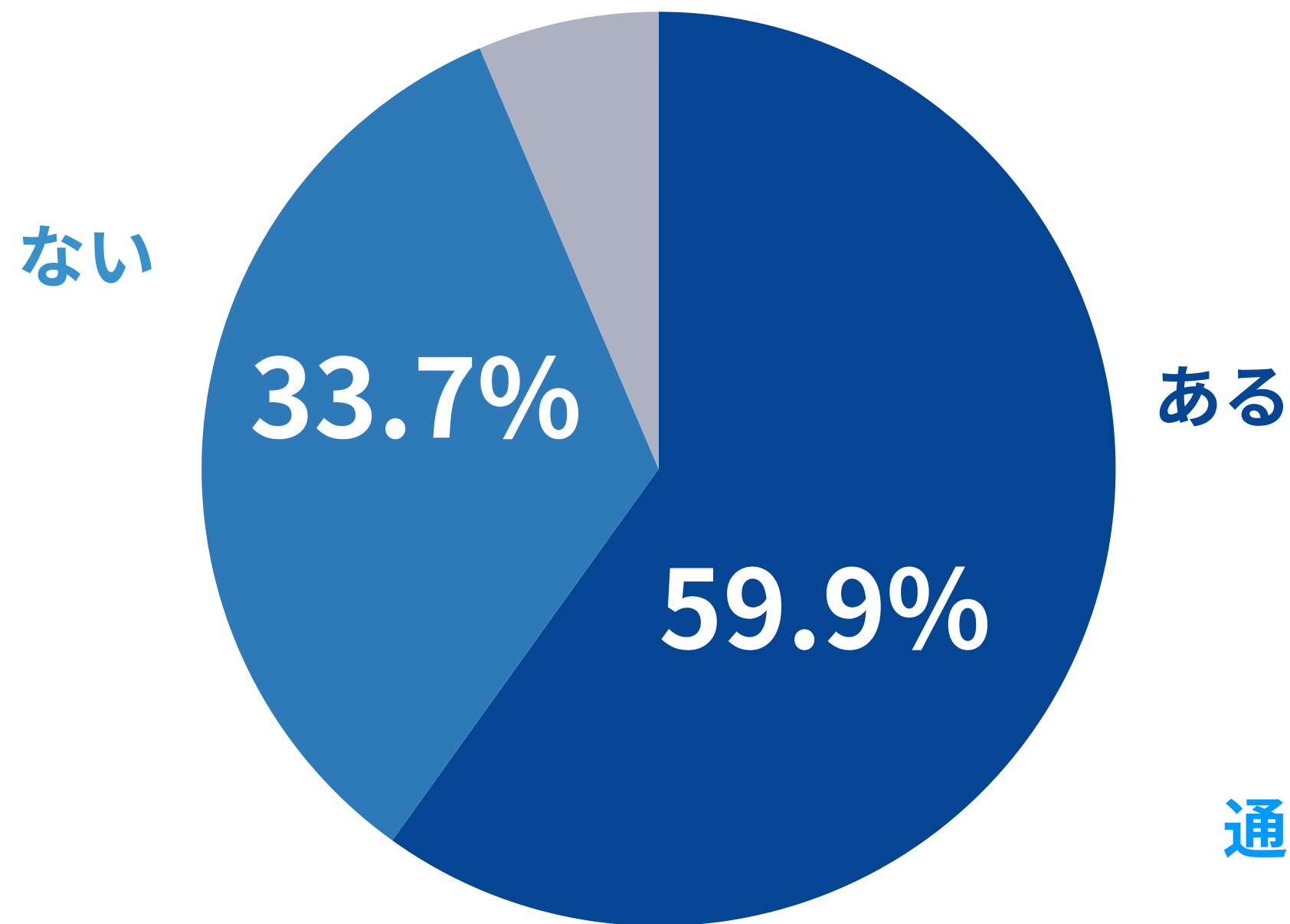
岡崎市を流れる矢作川周辺では、注意喚起の看板設置などの対策が講じられているにもかかわらず、水難事故が繰り返し発生している。こうした状況を踏まえ、事故の再発防止には現地対策のみならず、保護者や家庭における意識や行動の実態を正確に把握することが不可欠であると考え、本調査を実施した。

左は回答者の子どもの年齢の割合を示し、今回は小学生中心となったが、当団体では就学時前からの啓蒙活動が必要と考え、市内の幼稚園等での指導も行っている。

Q1

あなたのお子さんが通う学校では
水泳の授業はありますか？

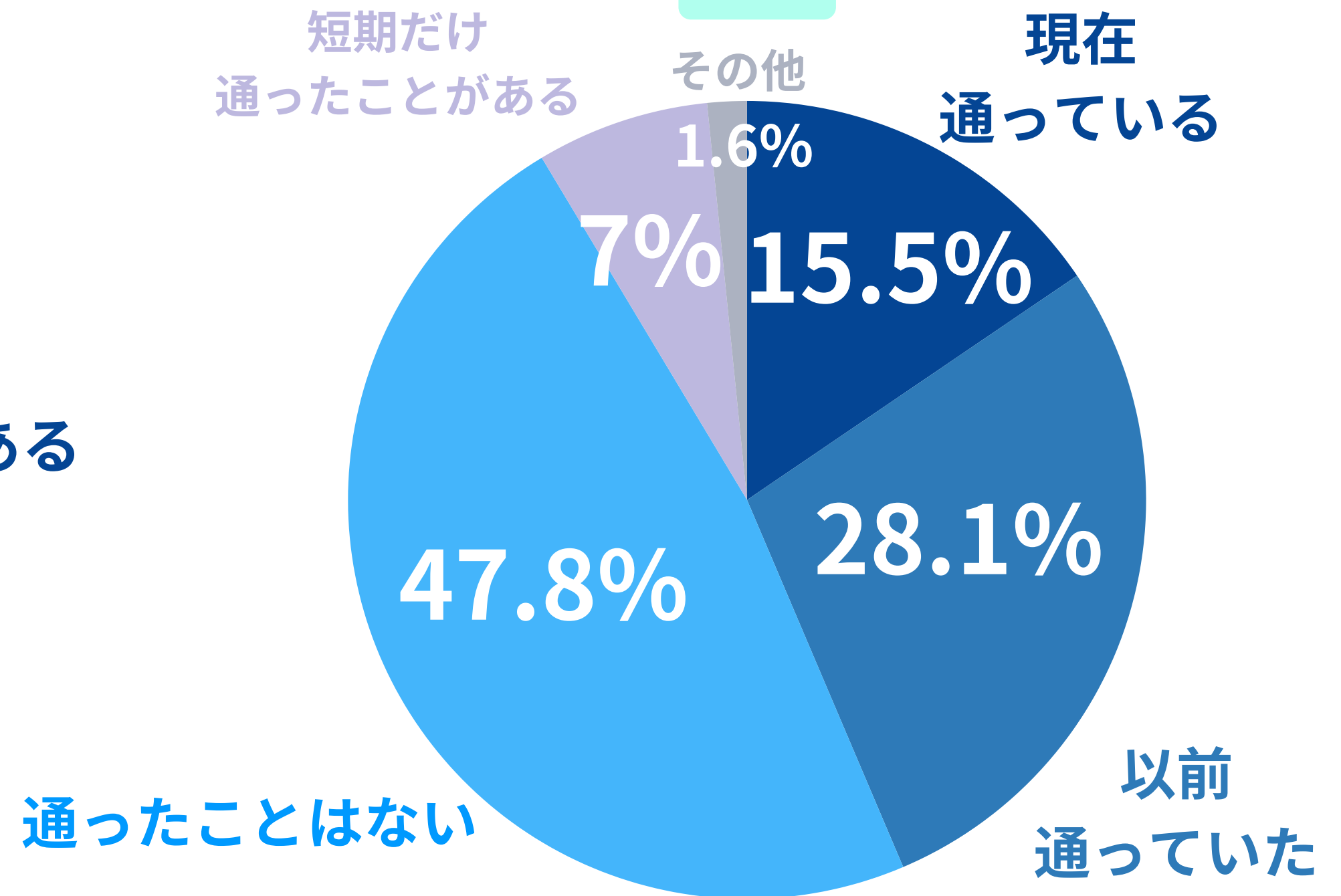
全国



Q2

あなたのお子さんはスイミングクラブに
通っていますか？

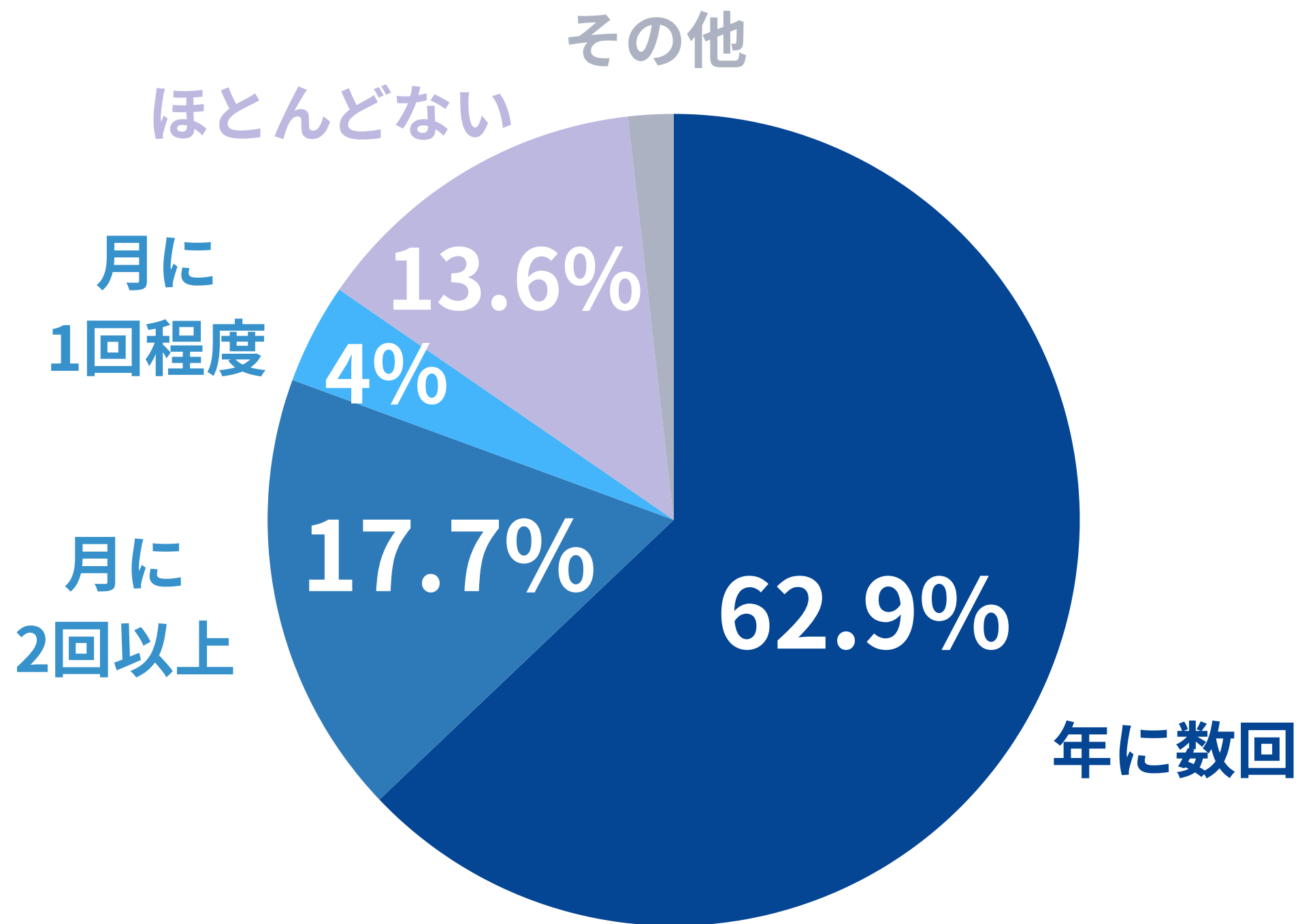
全国



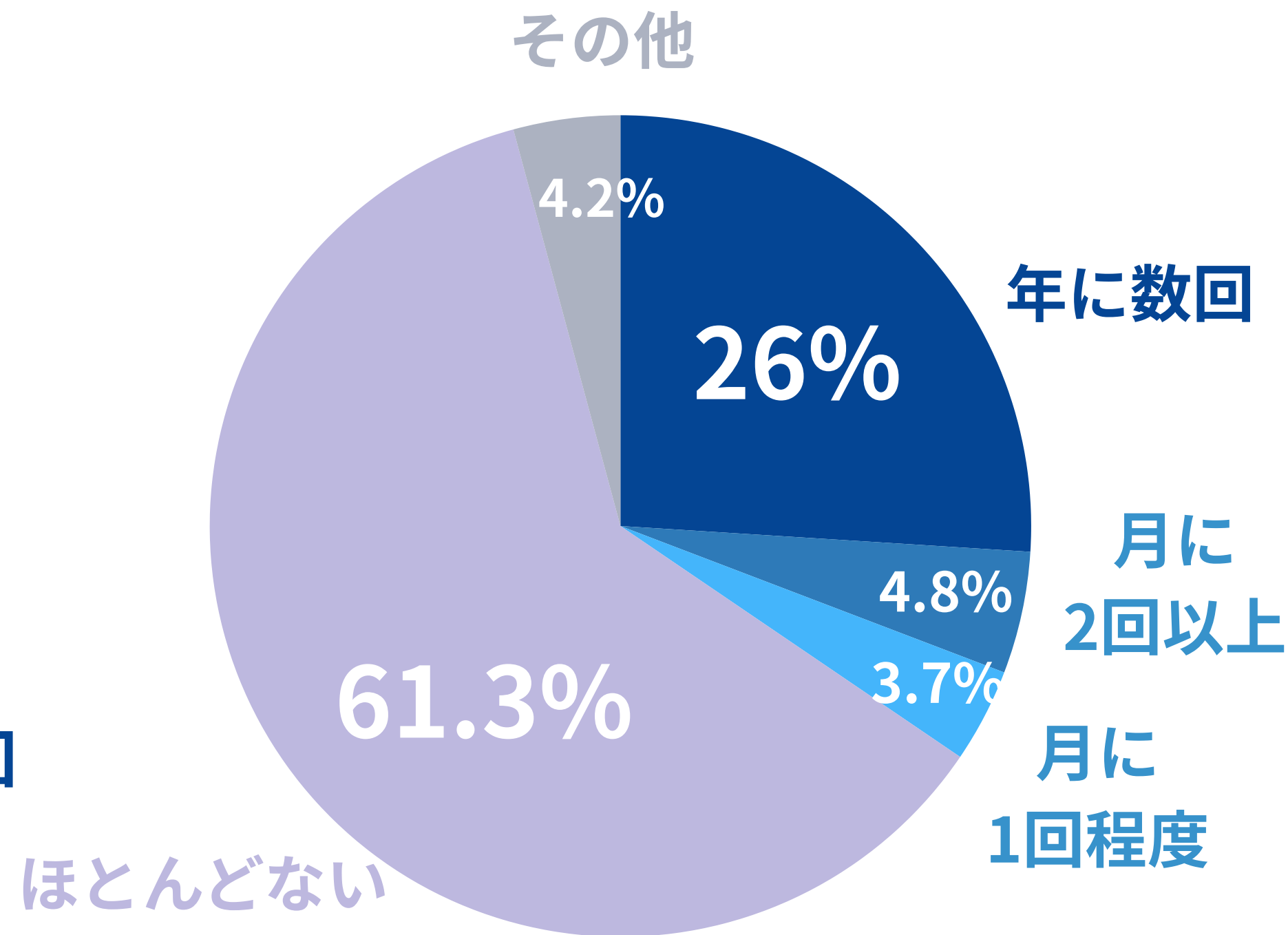
Q3

ご家庭で普段から水辺（川・海・プールなど）を利用する頻度はどのくらいですか？

岡崎市

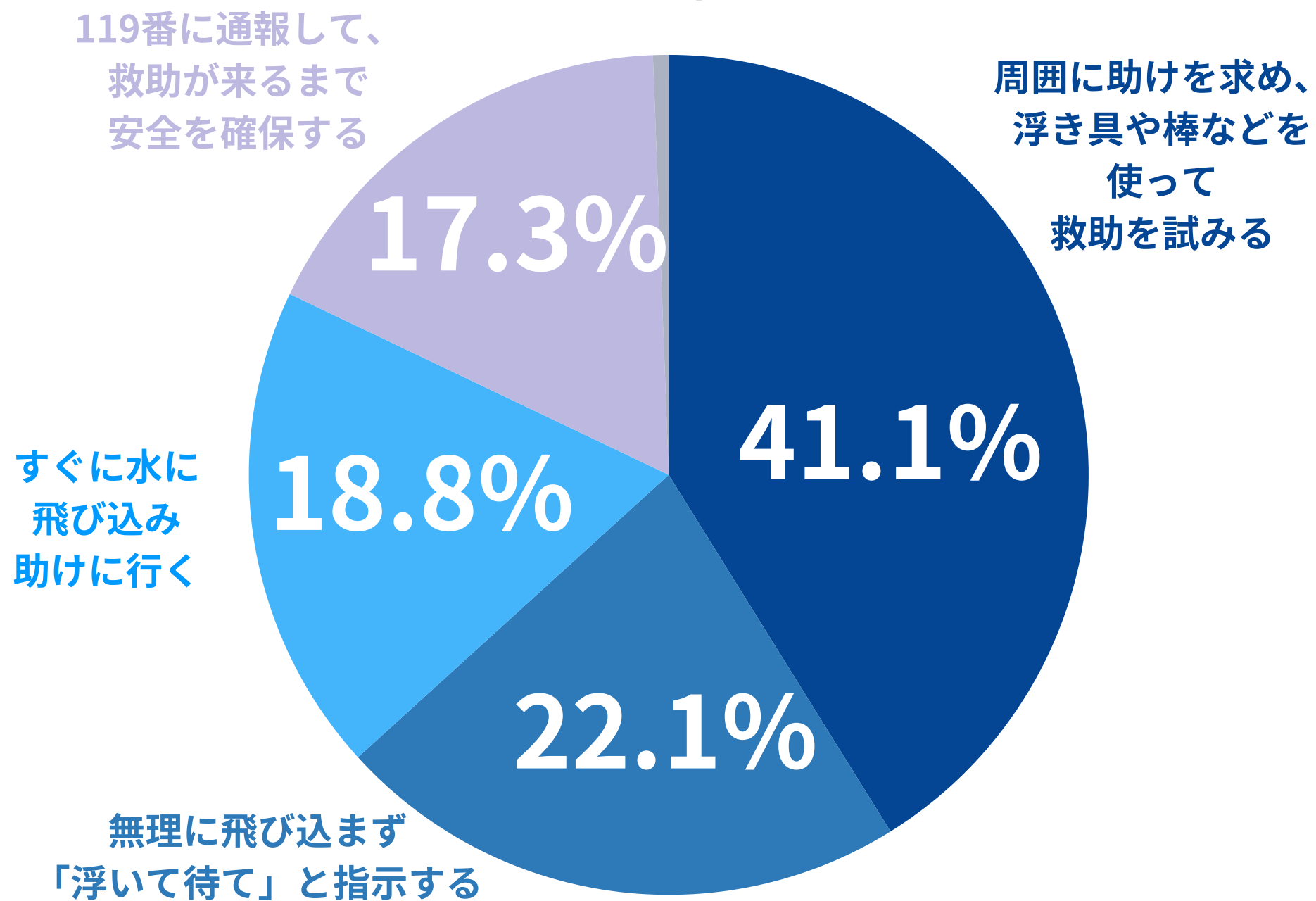


全国



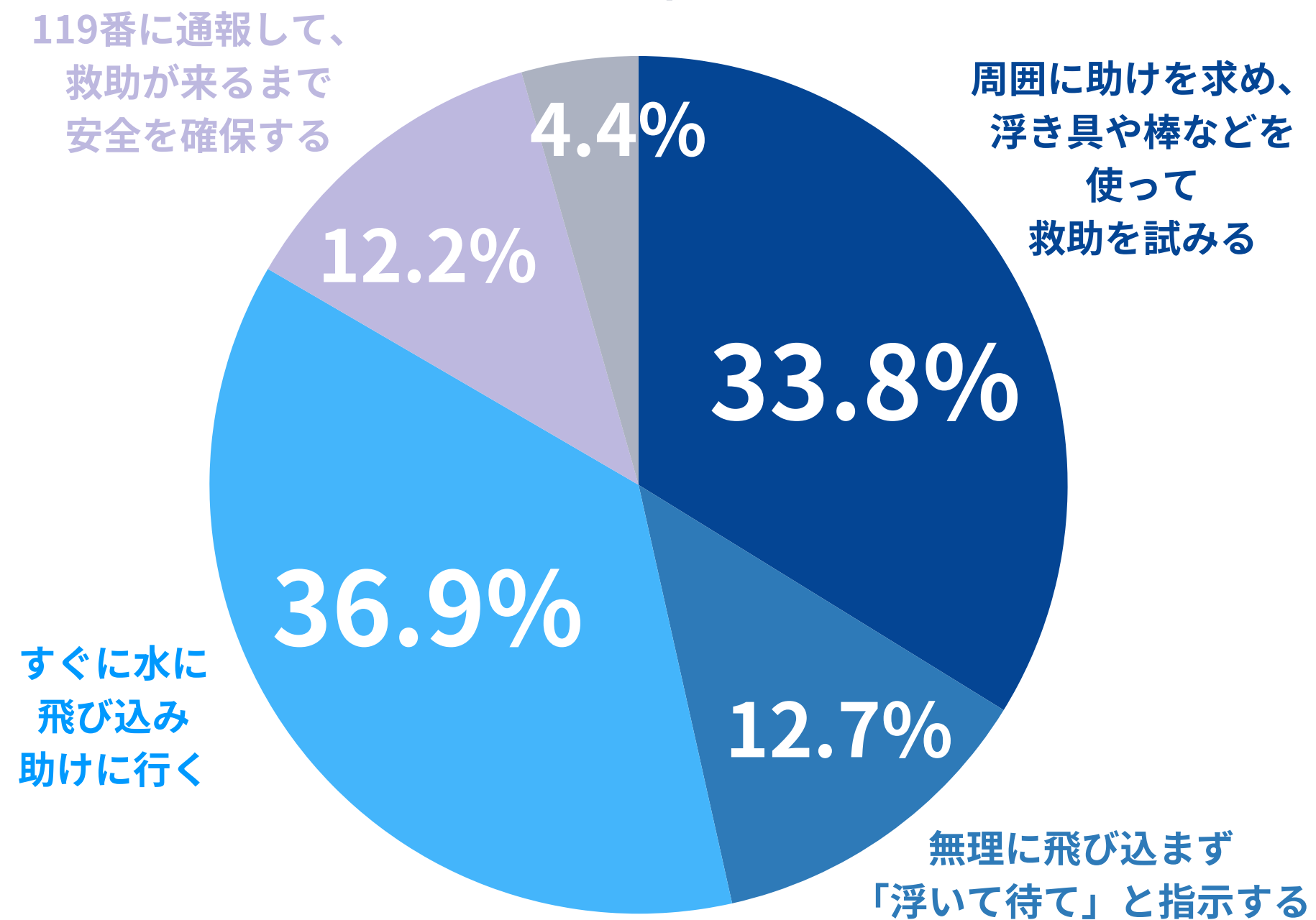
岡崎市

その他



全国

その他

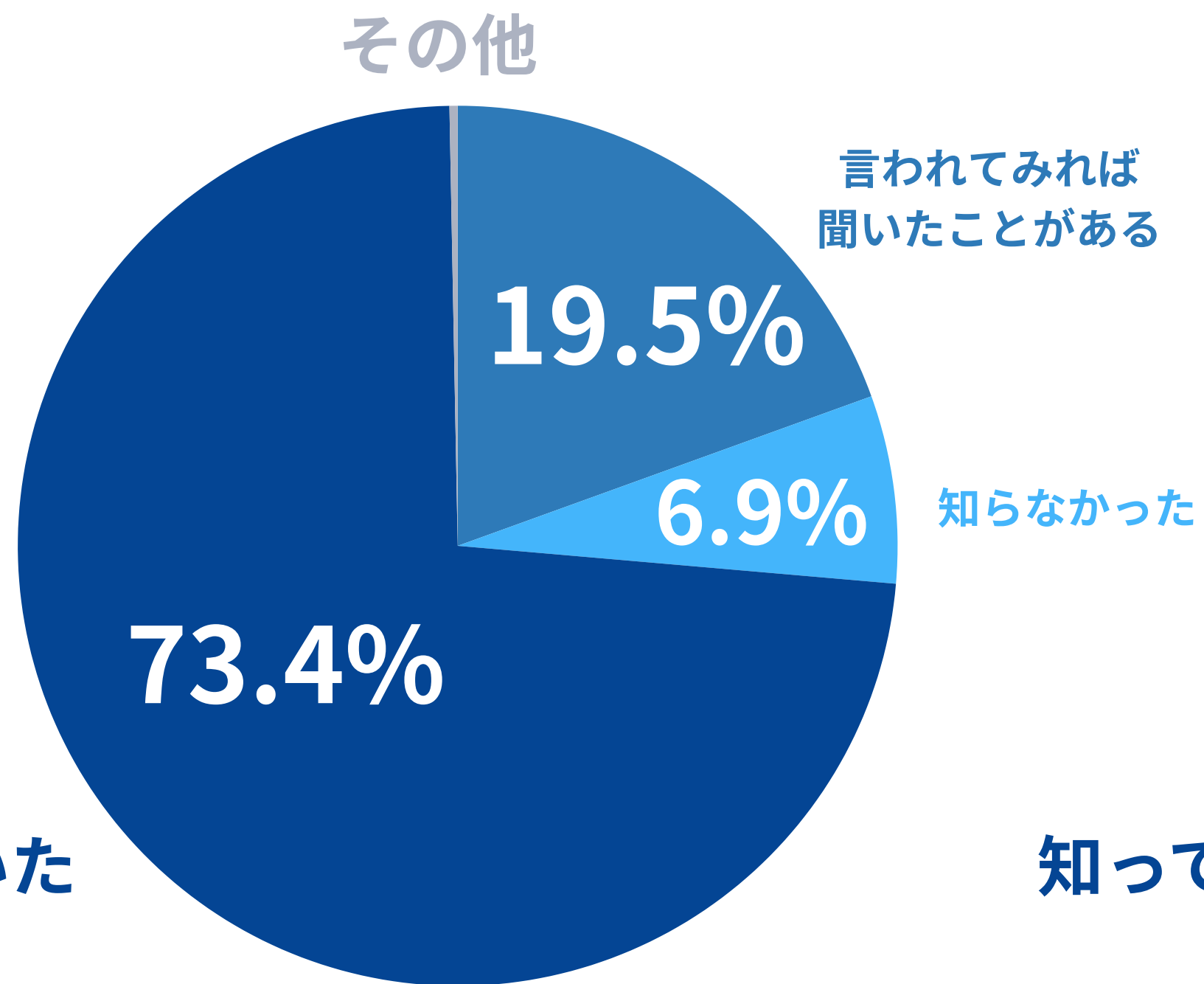


本設問では、子どもが目の前で溺れている状況において、「周囲に助けを求め、浮き具や棒などを使って救助を試みる」という比較的安全性を意識した行動が最も多く選択されている。一方で、「すぐに水に飛び込み助けに行く」と回答した保護者も一定数存在し、善意がかえって二次被害につながりかねない行動判断が想定されることが明らかとなった。また、「浮いて待て」と指示する行動を選ぶ割合は限定的であり、水難時の基本行動として十分に浸透しているとは言い難い。

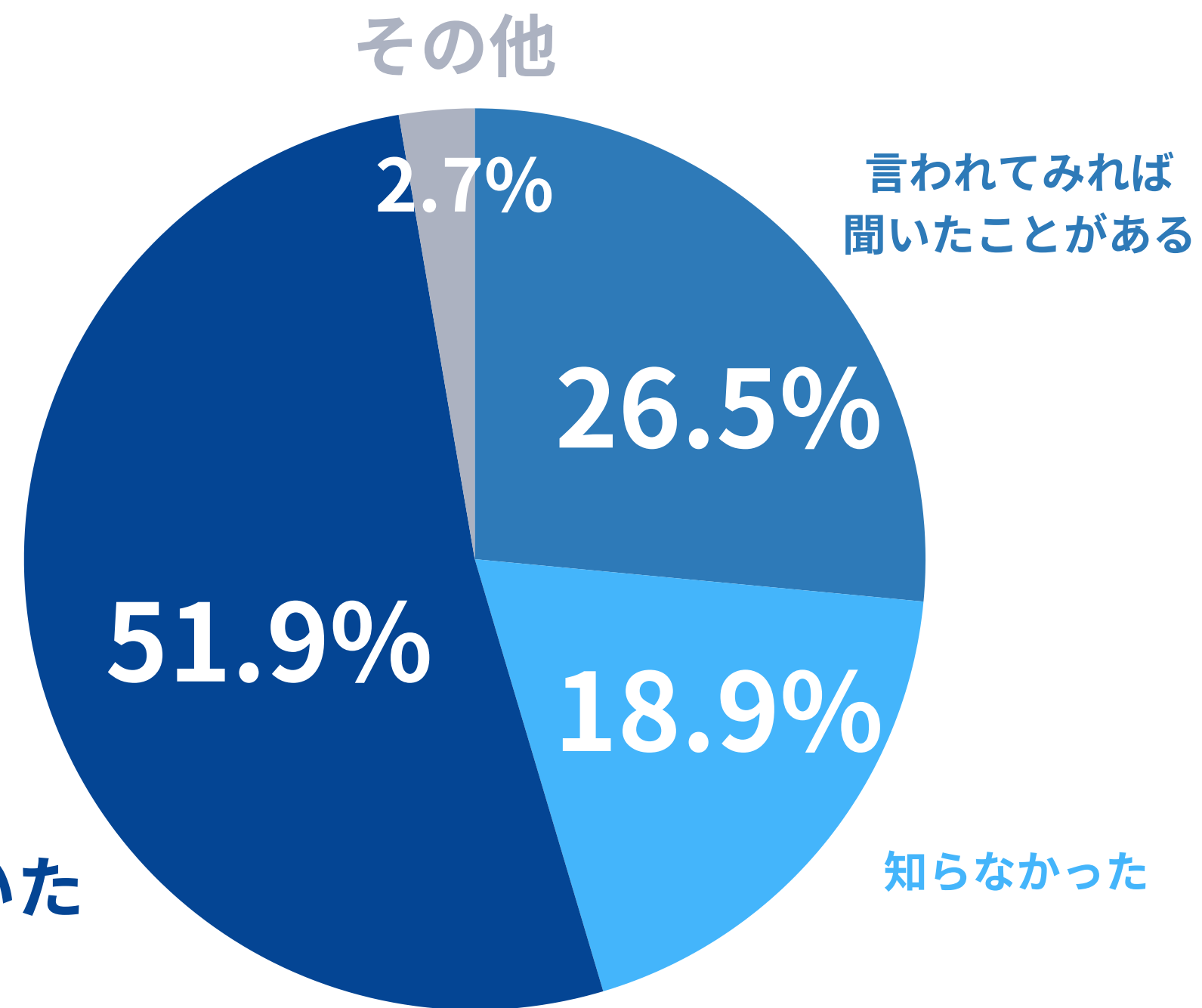
この結果は、多くの保護者が危険性を認識しながらも、**緊急時における正しい判断行動を体系的に学ぶ機会が不足しているという構造的課題を示している**。特に日本では、「助ける＝飛び込む」という価値観が根強く、冷静な初動判断が難しくなる傾向がある。

ウイテマテは、こうした緊急時においても思い出しやすい行動原則を提供し、子どもだけでなく大人の判断行動をも変える啓蒙手法である。本結果は、家庭・学校・地域を横断した水難予防教育として、**ウイテマテを制度的に位置づける必要性を示唆しており、命を守る基礎教育として政策に接続できる重要な根拠となる**。

岡崎市



全国



Q6

水泳選手のように泳ぎが得意な人でも、海や川では溺れることがあることをご存知ですか？

岡崎市

知らなかった

9.7%

14.1%

76.2%

知っていた

言うわれてみれば
聞いたことがある

全国

その他

2.2%

21.2%

24.3%

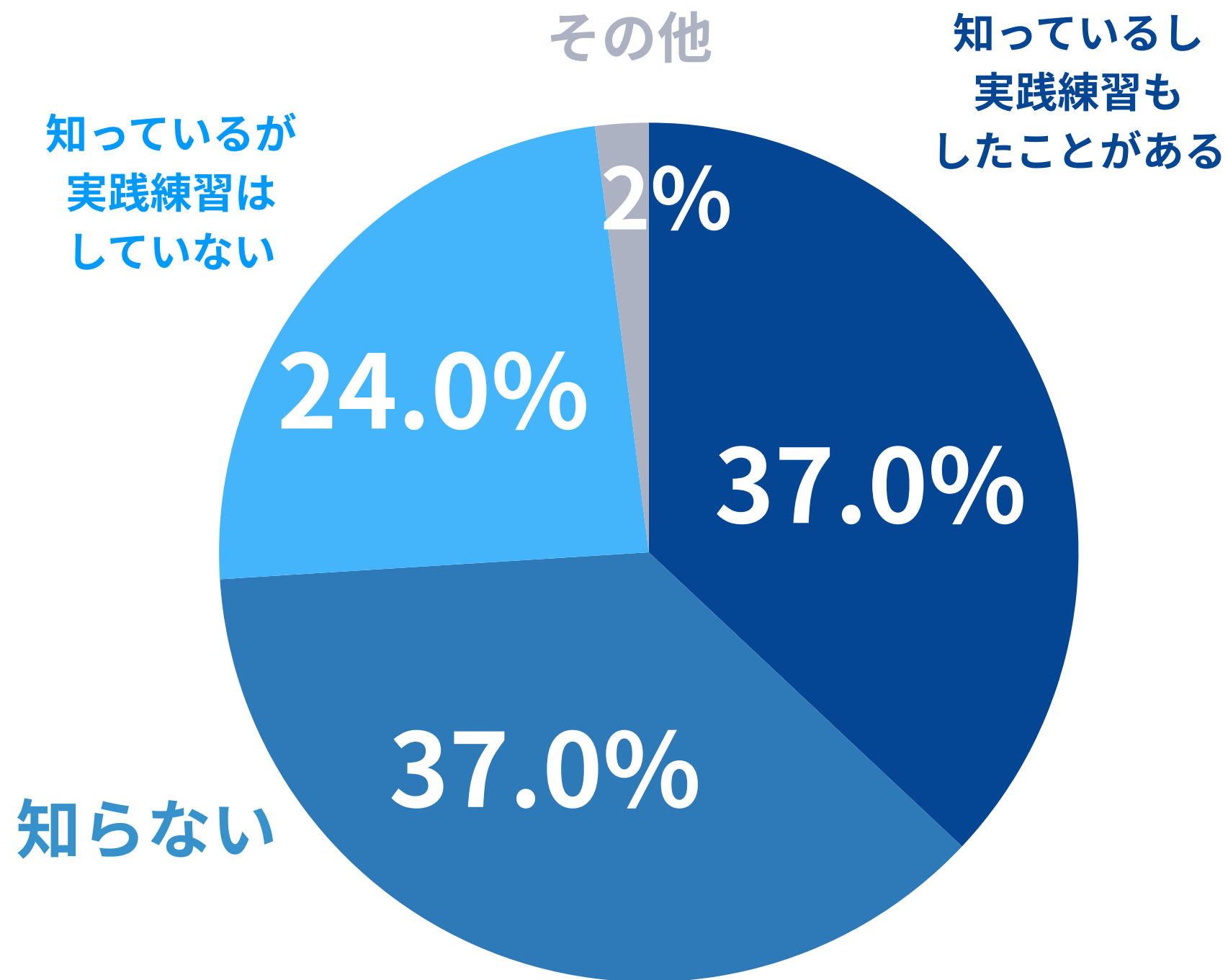
52.3%

知っていた

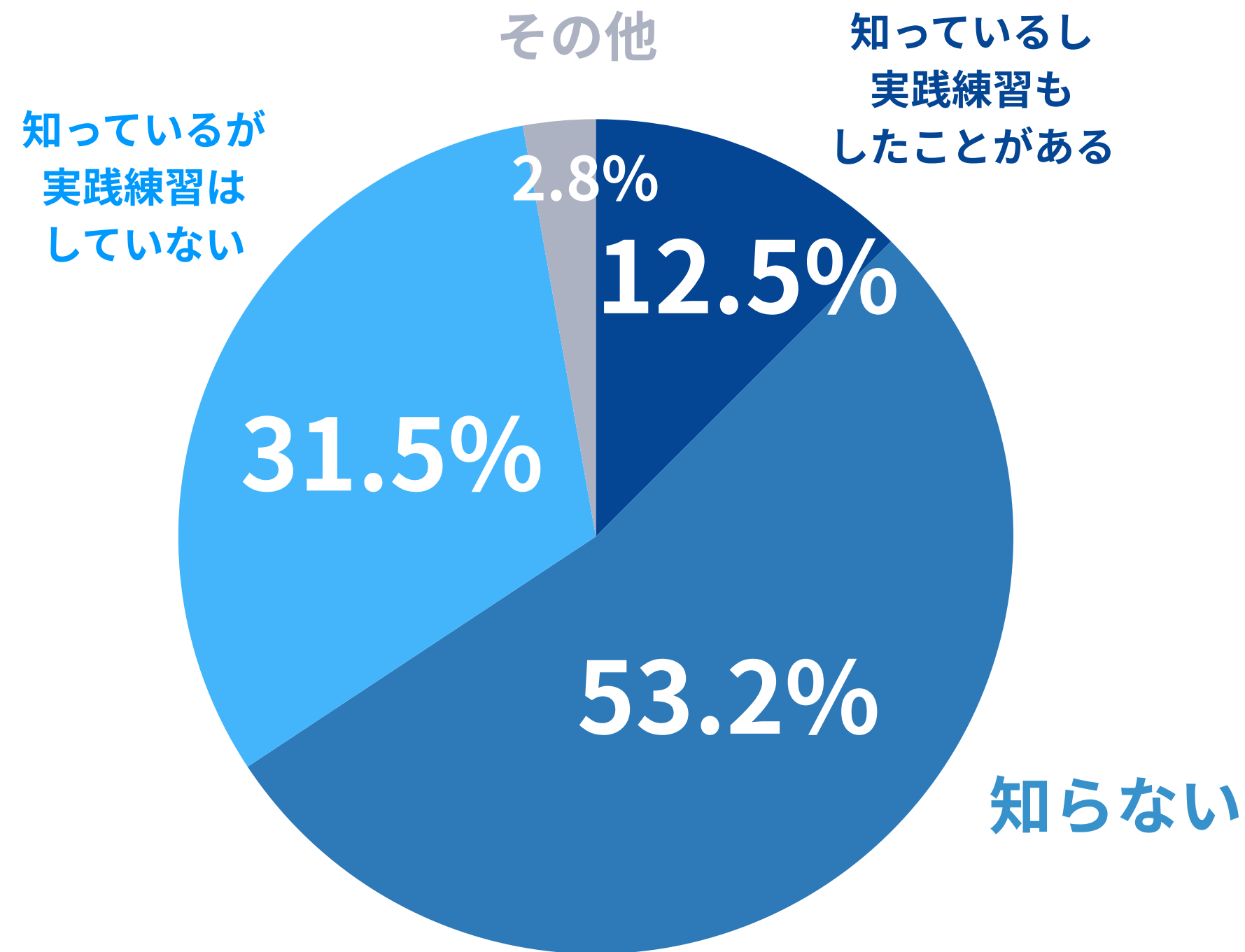
知らなかった

言うわれてみれば
聞いたことがある

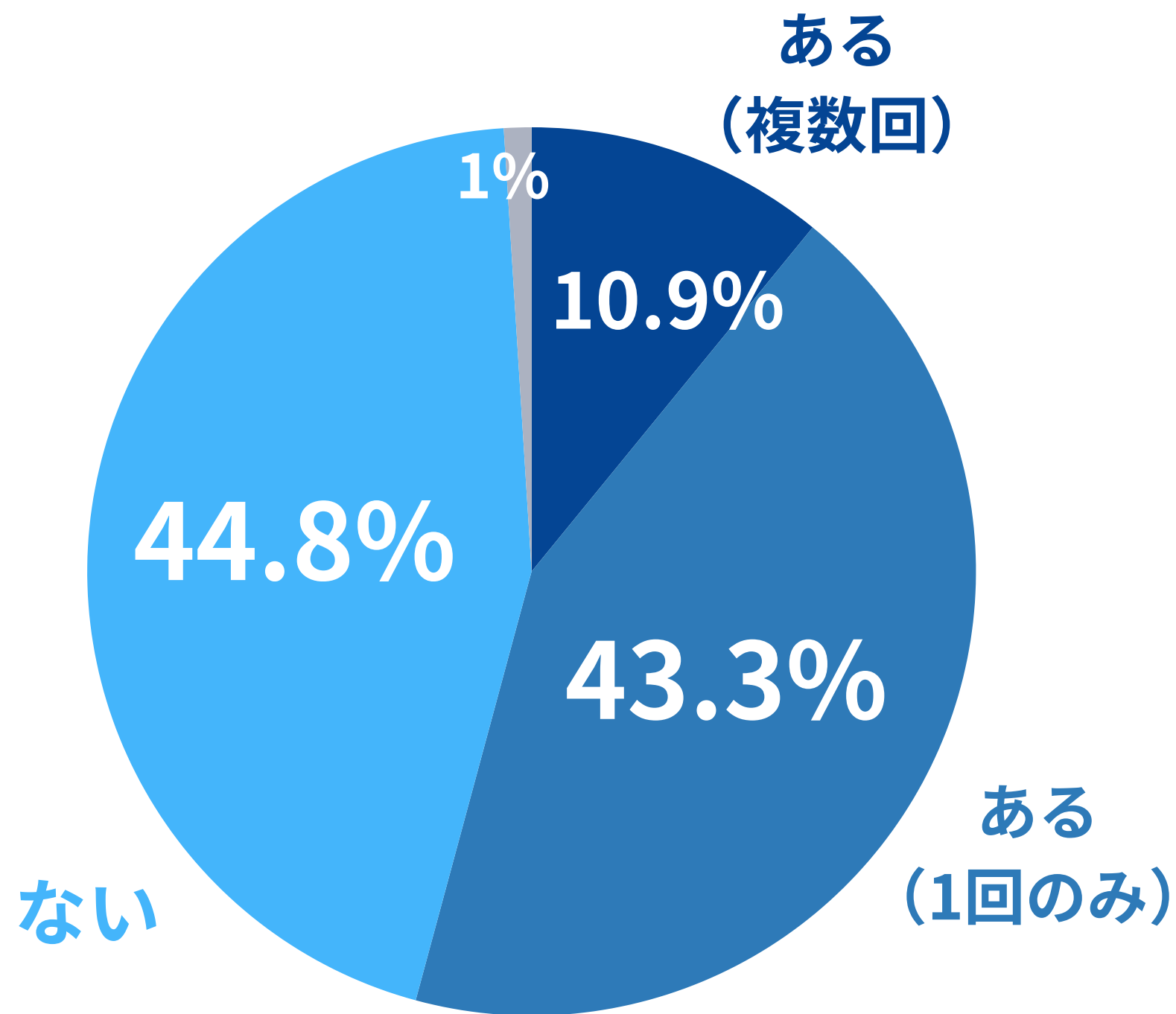
岡崎市



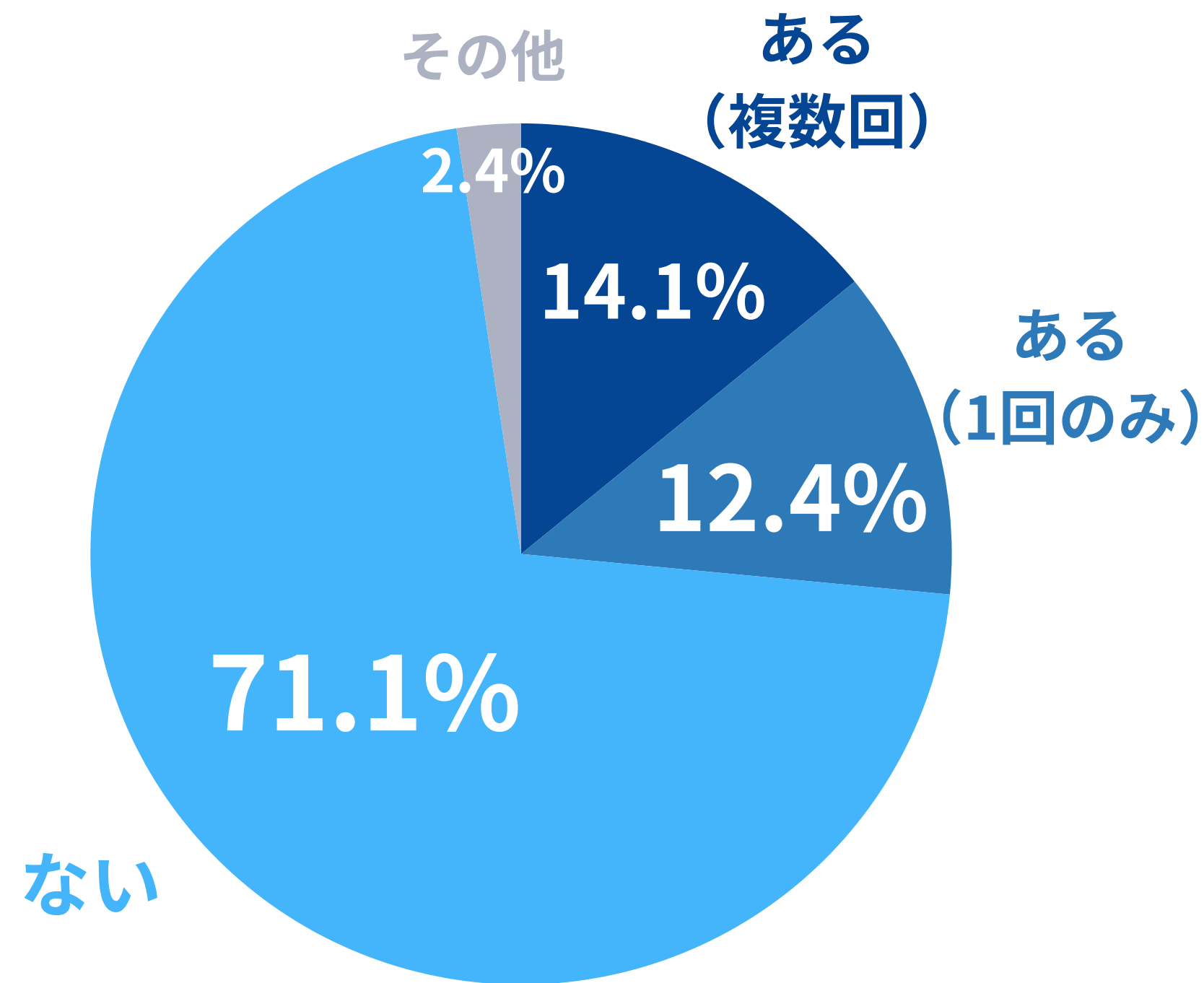
全国



岡崎市



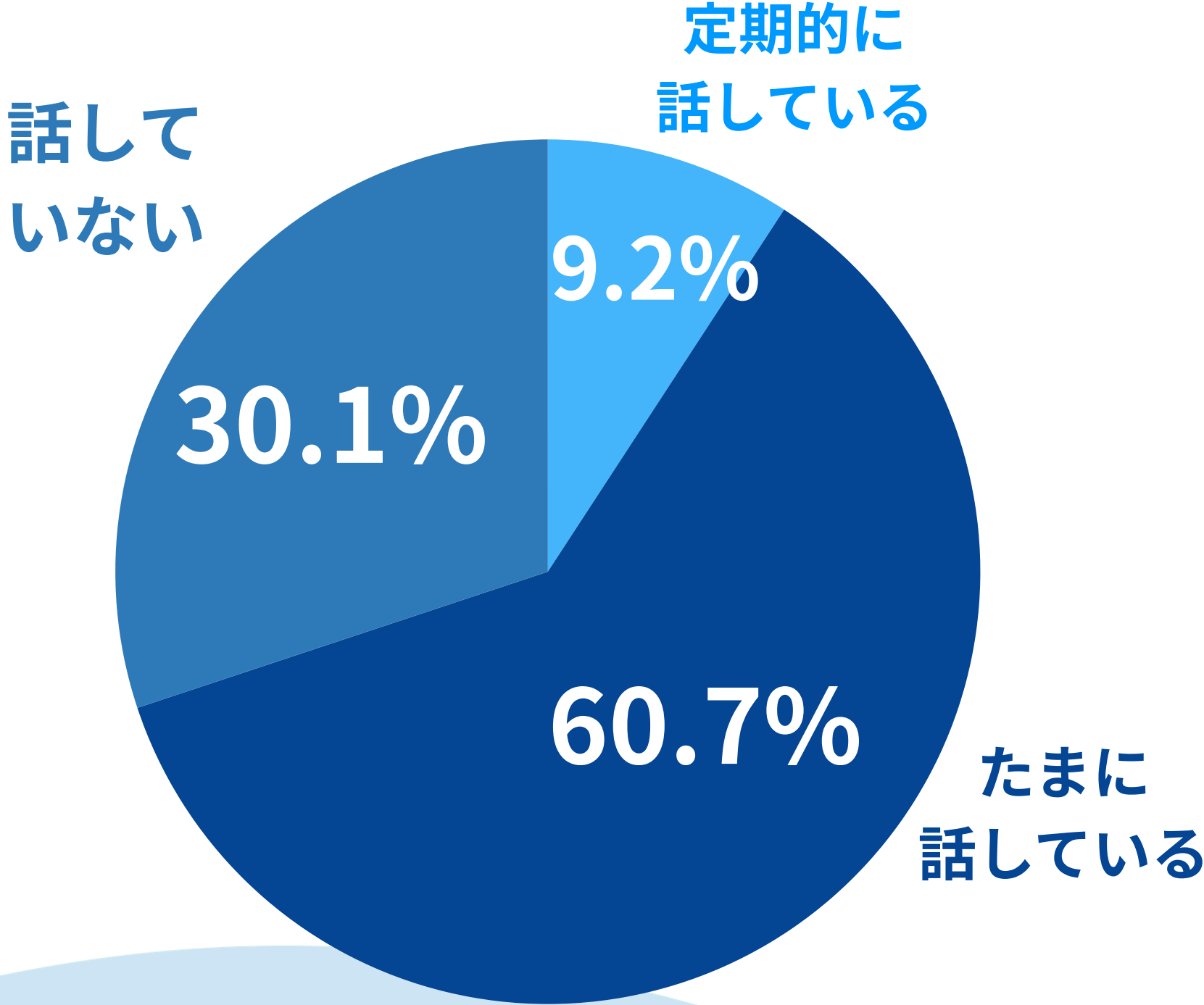
全国



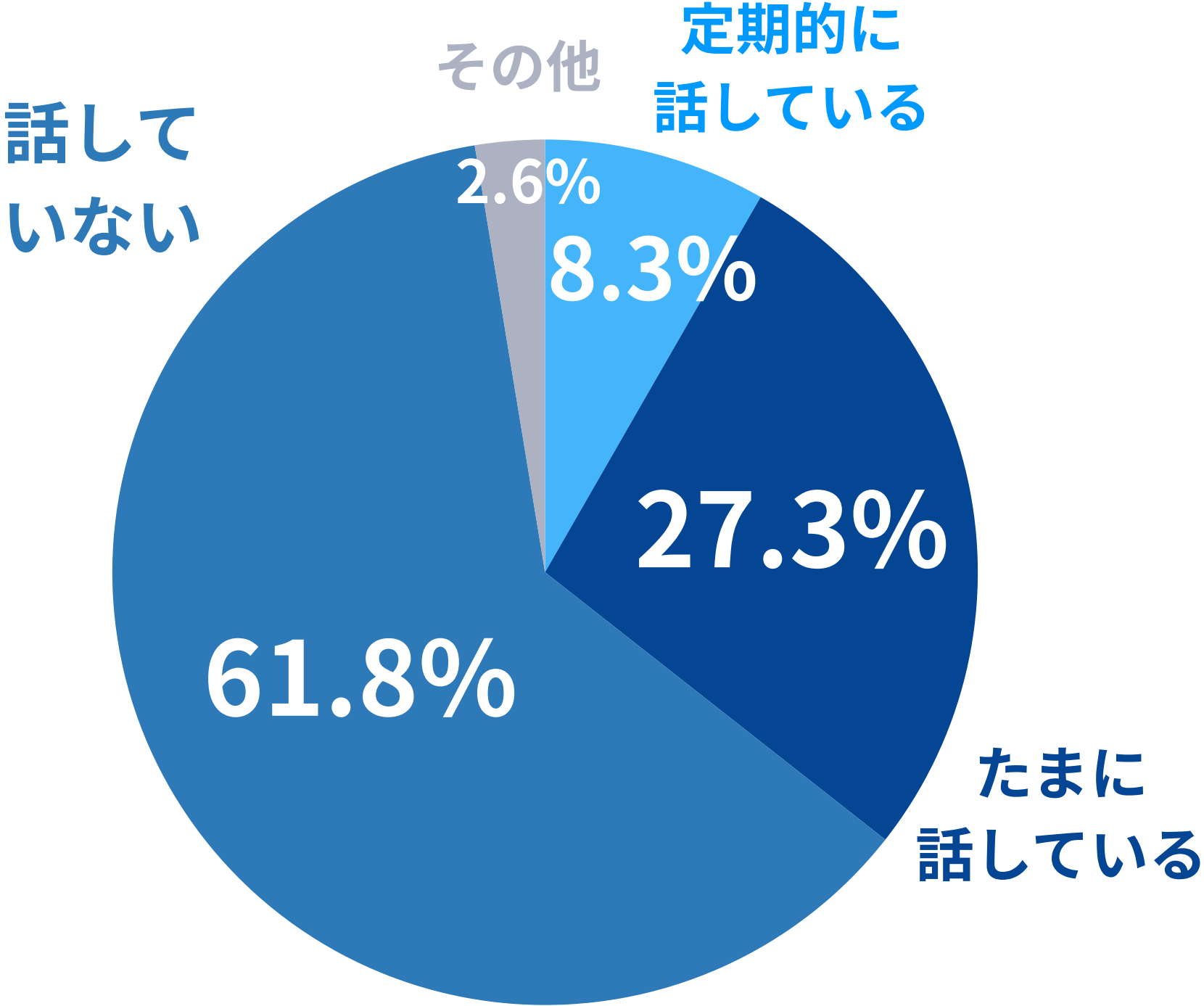
Q9

ご家庭でお子様に「水辺での危険」「万一の時の行動」について話をしていますか？

岡崎市



全国



ウイテマテの実践を、全国の命を守る仕組みへ

当団体の運営母体である岡崎竜城スイミングクラブは、愛知県岡崎市において50年にわたり、地域の子どもの水泳指導と安全教育に取り組んできました。今回の調査には当クラブの会員家庭も含まれており、比較的水辺の安全意識が高い層の声が反映されています。

それにもかかわらず、緊急時の判断や行動には依然として課題が残ることが明らかになりました。

これまで私たちは、子どもたちにも自然になじめるよう歌をつくり、指導員による直接指導を通じてウイテマテの普及を行ってきましたが、人や場所に限りがあり、全国すべてに届けることは困難です。

そこで、誰にでも届くミュージックビデオという手法で全国展開を目指します。

本プロジェクトはクラウドファンディングにより実施予定であり、スポーツ庁のご協力も得ながら、来年の水難事故を一件でも減らすため、競技の前に「命を守る行動」を全国に届けたいと考えています。ぜひ本取り組みへのご理解とご協力をお願いいたします。

一般社団法人パワーストローク代表 大森久美